

授業「ヒロシマのころ」

国際平和文化都市・広島に位置する広島都市学園大学では、平和を愛し創造する人材の育成を図っています。子ども教育学部の授業「ヒロシマのころ」(1年次生)では、原爆を中心に平和について学びます。11月11日(土)は、平和公園で学びました。

原爆資料館見学の後、寺本貴司さんから実際に体験された被爆前後のお話を聞きました。体験を踏まえた絵とともに展開されるお話や現在の思いをお聞きし、学生からの質問にも丁寧にお答えいただき、私たちは、平和を創ることの大切さや身近なところから創る必要性を学びました。



渡部朋子さんからは被爆樹木のお話や紙芝居を聞いたのち、一緒に実際の被爆樹木に会いに行きました。平和公園に移植されたアオギリや平和大通りの柿の木、広島城のユーカリが被爆後、様々な困難に立ち向かい生き続けている姿に触れ、私たちは大きな感動を受けました。是非とも、保育者や小学校教員になった際には、伝承し、子どもたちとともに平和を創造する保育者や教員になってほしいと願います。



(授業担当者：佛圓弘修、杉山直子)